歩き遍路体験学習レポートから

①

目立つ吸殻、山中にも

室戸付近を行く明徳短大生

今治明徳短期大学（愛媛県今治市、佐藤晃一学長）の「歩き遍路体験学習」は今年で三年目になる。第一回は地元の四十五番岩屋寺から大寶寺を経由して六十四番前神寺まで、昨年は一番から二十二番平等寺まで歩いた。今年は五日間かけて平等寺から神峯寺まで、八年かけて結願する予定。

この企画は、同学の前学長・星島一夫氏（故人）が「自立心、忍耐力、連帯感を身につけ、自然との共生、地域文化に関心を持つ人づくり」を目指し、スタートした。

学生は四月から講義を受け、装束の制作・スケジュールなどすべて自主的に計画、五日間の歩き体験に挑んだ。参加者は何を感じ、学んだのか。レポートから抜粋、紹介しよう。

生活科学科
鴻上　佳之

【はじめに】　遍路道に限らず、人が生きていく場所には必ずゴミがでます。「無くそう」という意思がなければ、どんどん増えていくでしょう。最低限、公共の場や今回歩く精神修行の場・遍路道くらいはゴミを出さないよう気を使ってほしいと思います。

このレポートは公共の場にあるゴミに気付き、この不自然さがどれほどのものか調べてみようと思ったからです。

【調査結果】　**一日目＝平等寺～薬王寺**

出発してしばらくは主要道から外れた遍路道で、ゴミは比較的少ない。それでも谷間に投棄された多量のゴミは、悪い意味で印象的。国道に入った途端にタバコの吸殻が増える。

二日目＝薬王寺～ふれあいの里・遊遊ＮＡＳＡ

国道であるからかタバコの吸殻は数限りない。砂浜にも無数のゴミ、明らかに意図的に捨てられたものだ。呆れとも悲しみともいえる複雑な心境。

三日目＝遊遊ＮＡＳＡ～民宿ロッジ尾崎

高知県に入り東洋町、室戸市。町の中心部に近づくにつれ空き缶や布（ハンカチや手袋）などゴミが増える。町に入ると、その量はさらに増えた。人が増えるのだから当然？

四日目＝民宿尾崎～金剛頂寺

この区間、タバコの吸殻が多い。他の区間と比べてもダントツの量。特に休憩所や駐車場では呆れるほど。観光客が多いからと思われるが…。

山間部の遍路道でも飴の包み紙や弁当の包装紙など気になった。そしてタバコはおかしいと思った。ひとつ間違えば山火事の危険さえあるのだから。

五日目＝金剛頂寺～神峯寺

最後の日、特に目立つゴミは無かった。遍路道の情緒あふれる町並みから、付近の人たちの町を大切にする気持ちの表れかもしれないと思った。

【おわりに】　今回目立ったのは、タバコの吸殻の量でした。今回の調査は国道沿いが多く、旧道に入ると大幅に減ることから、どんな人が捨てるのか想像に難くありません。

人がいるところにゴミは出るものですが、それを仕方ないと思わず、より減らすよう努めたいと思います。今回の調査で一キロ当たりのゴミ数は五十四個（タバコ、空き缶など）という結果が出ました。この数値を決して少ないと思わず、ゼロに近づくよう考えたいものです。（疲れると集中力が乱れ、見逃してしまったゴミはかなりの量になるかもしれません。だから、このデータはゴミの最低ラインと考えるべきでしょう）

【お断り】　この調査は克明に行われていたが、紙面の都合で全てを掲載できなかった。例えばタバコの吸殻は総数三、三四四件、空き缶は九一一件、ペットボトル・ビン類は四五七件。さらに不法投棄と思われる大量のゴミが三一件もあった。総合計はなんと七、六一八件。この結果を、どう受け止めればよいのだろうか。

（編集部）